弥富北中学校学校便り　No. ９

至　誠

令和元年 10 月 28 日発

「今、やっていることの意味を考える」

～校長先生・朝礼講話より～

今日から日課が変わり冬時間になりました。後期になり、それぞれ新たな目標に向かって頑張っているところだと思いますが、生活リズムの変化とともに、気分も一新しさらに頑張ってほしいと思います。

さて、今日は、日本中が盛り上がったラグビー日本代表の話をしようと思います。今回のワールドカップの前、２０１５年のイングランド大会のことです。日本代表が、南アフリカ代表に勝ち、世紀の番狂わせと言われた歴史的な試合がありました。それまでの日本代表は２０年間のワールドカップでわずか１勝のチームでした。南アフリカ代表といえば、それまでのワールドカップで２回も優勝している強豪国です。その南アフリカから勝利を挙げ、予選プールでは３勝を挙げた日本代表でしたが、惜しくも決勝ラウンドには進むことができませんでした。今回の大会では、さらに進化し、皆さんもよく知っているように決勝ラウンドに進出、ベスト８に残るチームに変貌を遂げました。いったいなぜ、負けて当たり前だった日本代表は、このような強いチームに変貌を遂げられたのでしょうか？

前回の大会の時、日本代表のヘッドコーチは、現在のジェイミージョセフ氏ではなく、現イングランド代表ヘッドコーチのエディジョーンズ氏でした。当時、彼は、選手たちの中に眠った日本人本来の力を、どのようにすれば目覚めさせることができるかを真剣に考えたそうです。そこで考え、見出されたチーム方針が「ジャパンウェイ」です。「ジャパンウェイ」とは、日本人らしさを活かすということです。日本人らしさとは、勤勉さ、責任感の強さ、体格の小ささでした。短所だと思われていた体格の小ささを、エディ氏は弱点と決めつけず「一つの条件」と捉え、長所として活かしていきます。体格が小さいことの長所は、大柄な選手より機敏に動けること。そして、身長が高い選手に比べて低い姿勢を取りやすいことです。スピードと低いタックルです。その意識のもとで、日本人の勤勉さを活かし、選手はまじめにトレーニングに取り組みました。しかし、日本人は勤勉さゆえに与えられたトレーニングをこなす能力がありますが、考えてやっているか、疑問でした。つまり、なぜそのトレーニングをやるのかを日本人は意識できていなかったのです。エディ氏は、トレーニングに意味を持たせることに徹します。受動的な勤勉さではなく、能動的な勤勉さです。そして、自分でトレーニングの意味を考えて取り組む。これが開花したのがワールドカップです。さらに、今回のワールドカップでは、選手個人個人がチームのために責任を持つ「ＯＮＥ　ＴＥＡＭ」として実を結びました。

これを皆さんの生活に当てはめて考えましょう。今、やっていることの意味を考える。自分の長所を考え、それを活かす。勉強も運動も、すべてのことに当てはまります。やらされるのではなく、自分から考えてやる。その積み重ねが大切です。その積み重ねで、自分の長所を伸ばしていきましょう。